

1. 韓米協定. 次の通り述べて



(1) アフガニスタン問題

(1) 大韓政変計中の際、^韓 80年代に入ると

からの国際情勢は激変し、一層緊張にあり、

特に中東、アフガニスタン、ソ連の侵襲等の温度が

高くと申すなり。この後の^韓 情勢の急変を計し、

当時の意思交換の通り事態は急変にいた

らうである。

大韓政変計中直後、ソ連のアフガニスタン侵略

が中心であった。これは偏激的、局部的な問題

ではなく、ソ連の世界戦略、南下政策の一構成

部分である。これからのソ連の対外拡張は

中国と手を先を利(た)す。今回はソ連

2. 以上に対し、胡総書記は以下の通り述べた。

(1) 中曽根総理はじめ歴代総理並びに日本の指導者はすべて、日中の永遠の平和友好関係を希求していると信じる。但し、一部に軍国主義復活を望む者がいる（人数は不詳だが）。かかる少数の者の望みを実現させないよう努力を望む。

(2) 中国は、日本が経済的に繁栄し、政治的には平和を愛する自衛力を備えた大国となることを希望し、日本がこの目標に向かつて進むことを支持する。自衛力が弱いとの総理の認識は信じる。従つて日本が適当に自衛力を増強させることにつき中国は反対しない。但し、どの程度まで拡大するかについてはむしろ中国ではなく、アジア全体が注目し、不安を持っている。自分（胡）としては、今世紀末から21世紀初めにかけては、いかに日本が自衛力を拡大させようと、中国と戦うことにはならないと信じる。

(3) 北方領土問題は正義の事業であり、中国は今後とも日本を支持する。

秘 密 222222

- 注意
1. 本電の取扱いは慎重を期せられたい。
 2. 本電の内容に関する照会、要望等は検閲班 (TEL 2171, 2174) に。
 3. 本電の主管変更は記帳班 (TEL 2172) に連絡ありたい。

大政事外外外官
務務典房
次次
臣官官審審長長

博公外査
代表使研審

総総察人電在儀警
括書対文会厚情オ

調企長	審企情折調
領移長	参一二旅査移
ア	審地中京了 二 一 東 二 参北一西
北米長	審北北保 二
中商長	審一二
欧	審西ソ洋 一 西 二 東
近ア長	審一二アア 二
経	次 経国資漁 一 二 三 審総 経国資 博
協長	審政技一開 一 技 参国一二理
条長	審条協規
國	審企軍專 一 参政経
科	科 原
情	審道内文 一 文
長	参ア外二

電信写

Q36RA

総 番 号 R037811 主 管
年 月 25日 21時 10分 中 国 発 亜 中
59年 03月 25日 22時 2.8分 本 省 着

外 務 大 臣 殿 鹿 取 大 使

総理訪中 (トウ小平主任との会談)

第1361号 極秘 大至急 Q36RA

往電第1350号に関し

ナカソネ総理は25日午前9時45分より約1時間半、人民大会堂フツ建庁においてトウ小平主任と会談を行なった。本件会談の内容は、1. 日中関係・経済協力関係、2. 中ソ関係及び3. トウ小平の回顧談であつたところ、その模様次のとおり。

(中ソ関係及びトウの回顧談部分別電1及び2)

(先方同席者：ゴガクケン外交部長、トウコク石油工業部長等)

トウ：総理の御訪中をかん迎する。日本訪問の際、お会いしてから5年になる。自分は、最近、し事を少なくし、健康に留意しており、コヨウホウ及びチュウシヨウに第一線で働いてもらつている。今は、てんが落ちて来ても、この二人に支えてもらう

総理とコ同志は、今回北京で、深えんな見通しのある決定をされた。日中間のながきにわたる友好関係をまず21世きにむけて、そして更に22世き23世き33世き43世きにまで続けていかななくてはならない。現在、日中間には、差し迫つた問題はな

い。日中関係を21世きに向けて発展させていくことは、他の全ての問題にも増して

外 務 省

03月25日22時37分